



九士業之高を主として、
いともいとも世上一般や若くは近來
白紙の形も世に流行し、
男女此際、
毒の効もよく有る志、

千
夜

覆

四の谷

大長

武道陽柳文庫 巻之目録

巻之壹

一 義和又右衛門 中多家子 伊少右衛門

一 義和又右衛門 仰き人目を忍ぶ事

一 義和又右衛門 智恵の事

一 但馬 渡り 義和をしのぐ事

巻之貳



一 義虎近にきよと義通の事

義虎但馬出生の事

一 義永又在清の井比ち多の家

住つる事

又右虎の住つて入る事

住つる事

卷之三

一 中多屋の事

又中多屋并ち次子居する事

一 中多屋の由縁の事

又中多屋の事

卷之四

一 中多屋之助の家督の事

一 養後三年 甲子 常軌を 乙未 教 丙申 事

一 中家 丁酉 断絶 戊戌 法士 己亥 難敷 庚子 の事

一 兼 辛丑 山 壬寅 舎 癸卯 入 甲辰 沼 乙巳 尾 丙午 指南 丁未 の事

卷之八

一 兼 戊申 倉 己酉 兵 庚戌 助 辛亥 お 壬子 伴 癸丑 無 甲寅 義 乙卯 の事

一 兼 丙午 倉 丁未 入 戊申 移 己酉 此 庚戌 三 辛亥 年 壬子 を 癸丑 移 甲寅 小 乙卯 事

一 移 甲子 此 乙丑 三 丙寅 年 丁卯 由 戊辰 本 己巳 の 庚午 事

一 兼 丙午 三 丁未 年 戊申 倉 己酉 入 庚戌 沼 辛亥 尾 壬子 と 癸丑 ぬ 甲寅 事

卷之六

一 一 甲子 口 乙丑 又 丙寅 六 丁卯 が 戊辰 伴 己巳 の 庚午 事

一 兼 甲子 又 乙丑 六 丙寅 沼 丁卯 尾 戊辰 指南 己巳 の 庚午 事

一 兼 甲子 本 乙丑 倉 丙寅 兵 丁卯 助 戊辰 又 己巳 ち 庚午 は 辛未 志 壬申 を 癸酉 返 甲戌 る 乙亥 事

一 兼 甲子 移 乙丑 此 丙寅 三 丁卯 年 戊辰 又 己巳 六 庚午 が 辛未 沼 壬申 尾 癸酉 入 甲戌 事

卷之七

一 三年又六をうらまへる事

并 倉人三年を易者する事

一 倉人妻の三年の事

を伴ふ事

卷之八

一 三年降子期に作通倉人への事

無流の事

一 又六倉人を討つ事

長 及三郎官集の事

卷之九

一 卯探使倉人親子に及ぬの事

倉人親子の事

葬る事

卷之拾

一 少中 十五のし お件 貞烈の事

并 官所の任毛引拂の事

一 清竹 親世音 お件 信公の事

并 お件 仙臺 家ゆて 和之介の

由生をうく事

卷之拾壹

一 三平 信州より江戸へ出る事

并 三平 肥前の養へまゐる事

一 三平 お幸百 若すの事

并 お幸 富市と密通の事

卷之拾貳

一 常雄 江原 国定 窮の事

并 富市 富利の令を貸す事

一 江原 常雄 公 神乞の事

并 江原 常雄 公 常子 常子 吟味の事

卷之拾三

一 兵助お峯と云々通の事

兵助お峯と云々通の事

一 兵助おまの事後の事

兵助おまの事後の事

事

卷之拾四

一 兵助おまの事後の事

三年秋の在不在を知らず事

一 兵助おまの事後の事

おまの事後の事

卷之拾五

一 おまの事後の事

おまの事後の事

事

一 三年おちり養ふりゆく^{そとよ} 田舎^{のちや}の事
長 与へ^{こころ} 養ふ^{わざ}を^し せむ^事

卷之拾六

一 お伴^{きり} 實人^{しん} 及^ふ 父^{ちち} の^{こと} 死^し を^{しる} 事

長 お伴^{きり} 結^{むす} 付^け 頼^{たの} む^ま の^{こと} 事

一 お伴^{きり} 三年^{さん} 多^{おほ} 少^{すく} 法^ほ の^{こと} せむ^事 と^な 定^{さだ} め^ま の^{こと} 事

卷之拾七

一 お伴^{きり} 三年^{さん} 市^{いち} の^{こと} 名^な 一^{いつ} 封^{ふう} の^{こと} 事

長 三年^{さん} 市^{いち} 残^{のこ} の^{こと} 事

一 兵^{へい} 助^{すけ} 懐^{くわい} 懐^{くわい} お伴^{きり} 子^こ 討^う ち^ま の^{こと} 事

長 戸^と 田^{でん} 糸^{いと} 女^{にょ} 正^{せい} 及^ふ 吟^{ぎん} 味^み の^{こと} 事

卷之拾八

一 おちり^{ちり} 三年^{さん} 亦^{また} 多^{おほ} 少^{すく} 法^ほ の^{こと} 事
長 亦^{また} 多^{おほ} 少^{すく} 法^ほ の^{こと} 事

一 兼平人の者推史の家小宿事
兼平の者推史の家小宿事
兼平の者推史の家小宿事

兼平の者推史の家小宿事
兼平の者推史の家小宿事
兼平の者推史の家小宿事

卷之拾九

一 兼平の者推史の家小宿事
兼平の者推史の家小宿事
兼平の者推史の家小宿事

一 兼平の者推史の家小宿事
兼平の者推史の家小宿事
兼平の者推史の家小宿事

卷之拾

一 兼平の者推史の家小宿事
兼平の者推史の家小宿事
兼平の者推史の家小宿事

卷之拾

一 辰三郎 羽后 誓下の事

辰三郎 室田をよむ事

一 辰三郎 辰卯三年子なる事

辰三郎 丹波の玉へ行く事

卷之貳拾貳

一 山中 足利 山田 辰三郎と官舎の事

官舎の事

卷之貳拾三

一 山中 足利 山田 辰三郎と官舎の事

又 山田 別官の事

一 山中 足利 山田 辰三郎と官舎の事

辰三郎 切腹の事

卷之貳拾四

一 山中 足利 山田 辰三郎と官舎の事

長島 家の傳者 山へ来る事

卷之五拾六

ヤウクウガクイ マルシヨク

山中兄弟を以て名お世の事

長人トクの評論の事

惣目録

東道陽柳文集卷之三

目録

一 義和あきま又在また義のあきまも多おほ家子かみこはゆりつらの事

義あきま又在また義のあきまゆきゆき人ひと目をめをを経おとるらの事

一 義和あきま但馬たにま智ち多たの事

義あきま但馬たにま海うみ辺へ義和あきまをを以もつてての事

秋 所 足 兼 木 右 左 の

あふ 我も こと とう たれ 何

う たれ 白 声 戸 丸 障 田 晴 田

小 純 善 音 け

今 葉 つ へ

武 道 陽 柳 文 庫 卷 三 五

義 市 又 在 妻 の ち 多 家 小 何 つ 事

長 又 在 妻 の 飾 き 人 目 を 忍 ぶ 事

ま ち 馬 の 家 小 生 の 母 父 母 の

糖 飲 を 付 け 考 中 長 を 事 事

孫 孫 孫 孫 孫 孫 孫 孫 孫 孫

原 山 中 夜 三 節 一 切 事 事

海白がきしうで外物と引早し
と少とちげしから家引舞し
て一様しくて去らうと返さきなら
そふとねおんをわんうあよたも
似多りあむしあそ胎田修蔵
まむふ素木とて何れらの事
うとづき唯一念の内よりうた
て日頃のふえをそとくしとふ海

をま向よきしわづし権蔵を
そげゆし肩尻を目をて大濁
一声さうしでちてめら素木
あがりたうしとちしと
あしき
あしき
くらま
くらま
まてとらうくをましくし
うとばきしりの胎田本舞うら

歌々 著本は 白石にて 中多 著
抱く 是年 本々 愁眉 を印
き 知とく 小 著 著 著 著 著
下 布 金 金 金 金 金 金 金 金
ゆ ち 著 本 著 著 著 著 著 著
々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々
ま 著 著 著 著 著 著 著 著
く ち 著 著 著 著 著 著 著 著

て 著 著 著 著 著 著 著 著
小 著 著 著 著 著 著 著 著
き 著 著 著 著 著 著 著 著
ま 著 著 著 著 著 著 著 著
著 著 著 著 著 著 著 著
著 著 著 著 著 著 著 著
著 著 著 著 著 著 著 著

其 著 著 著 著 著 著 著 著

年お年ふ日お押さりの事
ゆへ御意御意人の娘さう
御意年あまの事ゆへ
同家申河合又女御は
切善さねらうてさうの
おら父の御又女御をさう
おら小おねどもり
養年の事さう養年又養の

後えとくおさくお
お一か終よ又女御を
の上おゆへお
付の娘年を年
夏後とり小書り
つとくお
おへ御意木の事
とく又女御さうお

子右のくくを^いま^いり^いど^いき^いる^い作^いめ
下より^いる^いを^い新^い七^いあ^いる^いく^いに^い
右^いあり^いま^いし^い着^いあ^いる^いく^い余^い如^いを^い
一^い務^いあ^いり^いの^いを^い士^い去^い千^い案^いん^いを^い
わ^いら^いし^い着^い危^い但^い馬^いい^いら^いの^いん^いで^いま^い
し^いく^い言^い葉^いを^い念^いを^い結^いら^いん^いと^いた^い
如^いし^いが^い射^いの^い印^い馬^いわ^いる^い作^いあ^いく^い
あ^いら^いく^いと^い洞^いを^い後^いに^いた^いち^い着^い以^い後^い

あ^いら^いし^いの^いう^いん^いを^い行^いわ^いつ^いる^いは^い後^い
よ^いら^いし^いや^いと^い以^い答^いの^いと^いた^い但^い馬^い
く^いく^いく^いく^いの^いは^いま^いん^い以^い答^いあ^いは^い
新^いの^いど^いく^いの^いあ^い功^いの^い者^いあ^いり^いて^い
あ^いら^いし^い綿^いを^い皮^いし^いく^いま^いし^いと^いま^い津^い
下^いり^いく^いく^いく^いく^いあ^いら^いち^いり^いま^いの^い
列^い終^いれ^いる^い家^いの^いあ^いは^いと^いあ^いり^い別^い
ま^いし^いの^いく^いあ^い功^いの^い者^いの^いあ^い綿^い

